

環境を汚さず、安全な作物を作るための農作業の新たな基準が注目を集めている。名前は「農業生産工程管理（GAP＝Good Agricultural Practice）」。

「これからはGAPをやった当たり前の時代になる」。九条ネギを生産する農業生産法人、こと京都（京都市）の山田敏之社長は仲間の農家にこう説いている。相手は同社の指導でネギを計画生産し、出荷するグループの農家たちだ。

農水省、「適切な農作業」で指針

の農協は4月から、GAPの導入に向けて動き始めた。使う基準は独自で作った。欧州などで使われているGAPと比べると内容は簡素だが、将来的にはより充実させることを目指している。

多くの農家は今も卸業者や市場の求めで、農薬をどれだけ使ったかを記した農場は10万近くに達しているという。動きは急速に世界に波及。チリやタイ、ベトナム、ニュージーランドなどが欧州に倣い、次々に独自基準を作った。中国も農産物貿易に有利になると考え、国を挙げて推進する。

日本では日本GAP協会が欧州の基準なども参考に詳細な点検リストを作った。スロバキアや自治体、農協も基準を設けている。ただ内容はばらばらで、第三者機関の認証なしに「導入した」と宣言している

「中国産の野菜を売っているから国産より安心」といって営業していると「現場ではこんなうわさも流れている。国際競争にさらされる現場の危機感強い。今後は乱立する日本のGAPのうちどれが信頼できるかで差がつき、どれだけ高度な基準を守れるかで農家の選別も進むとみられる。」

すよう農場に求め、違反した場合は補助金を減らす制度がある。これに対し、日本でコメを対象に今年度から導入した戸別所得補償制度は「すべての販売農家」が対象。基準を設けて補助金を減らす発想はない。

信頼確保競争力高める

録し、報告している。これに対し、GAPで点検が必要になる項目は土壌



GAP導入を検討する京都の農業生産法人（京都市）

作った。スロバキアや自治体、農協も基準を設けている。ただ内容はばらばらで、第三者機関の認証なしに「導入した」と宣言している

「中国産の野菜を売っているから国産より安心」といって営業していると「現場ではこんなうわさも流れている。国際競争にさらされる現場の危機感強い。今後は乱立する日本のGAPのうちどれが信頼できるかで差がつき、どれだけ高度な基準を守れるかで農家の選別も進むとみられる。」

「中国産の野菜を売っているから国産より安心」といって営業していると「現場ではこんなうわさも流れている。国際競争にさらされる現場の危機感強い。今後は乱立する日本のGAPのうちどれが信頼できるかで差がつき、どれだけ高度な基準を守れるかで農家の選別も進むとみられる。」

（編集委員 吉田忠則）